

## 中国（雲南）の南進策

= 中国は GMS(Greater Mekong Subregion)諸国と協調出来るか =

日タイ・ビジネスフォーラム 吉川和夫

### (1) GMS の概略

#### 1. GMS の成立

Greater Mekong Subregion (GMS)はアジア開発銀行 (ADB) の主導の下、ベトナム、カンボジア、ラオス、タイ国、ミャンマーの 5 カ国と中国（雲南省）で 1992 年、地域協カプログラムとして、同地区の発展のため結成された。2005 年には 中国の要請により、広西チワン族自治区を加えた。大メコン圏とも訳される。

#### 2. GMS の優先課題

当初の主な優先課題は輸送及びエネルギーのインフラ整備であると 2002 年 GMS サミットで決定した。

- ・ 輸送は 3 大回廊（南北、東西、南部）の建設であり、
- ・ エネルギーのインフラ整備は水力発電の開発であった。

#### 3. 中国の南進戦略と GMS 開発

- ・ 中国の南進策は地政学上からも当然の成り行きであり、同時に最近は資源獲得を重要視している。
- ・ 2002 年の GMS サミットと党大会を機に、中央政府が GMS を重視する事にした。以後中央政府も雲南代表と共に GMS 会議に参加する事になった。
- ・ 中国は GMS の開発の名の下に、昆明を起点に GMS 地域を縦断し、シャム湾、インド洋に抜ける、戦略を樹立し、道路の他に高速鉄道、港湾の建設を提案した。
- ・ 中国は今後 15 年間に約 500 億ドルを GMS 域内に投資し、32,000 メガワット (MG) の電力を調達する計画を策定した。

### (2) GMS 域内の諸計画進行状況

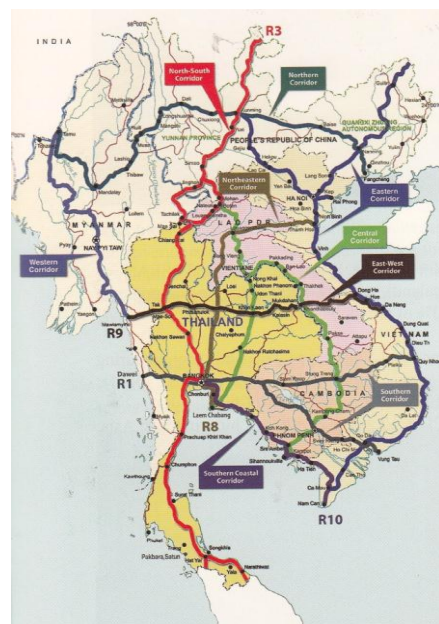
#### 1. 回廊の建設

##### a. 南北回廊

2013 年始めにラオス領ファイサーイとタイ国チェンコーン間のメコン河第 4 架橋が完成すると名実ともに、昆明—バンコック間の回廊が完成する。景洪—ファイサイ經由で 1800 km となる。

##### b. 東西回廊

(モーラヤイン) — (第二メコン架橋) — (ドンハ) が基本ルートであるが、タイ国は独自にナコンパノムに第三メコン架橋を自費で 2011 年秋に建設した。ハノイまでの距離を約 160km 短縮出来た。鉱石搬出等の必要もある。



上図は GMS 域内の回廊計画。  
タイ国首相府資料。

### c. 南部回廊

タイ国の東海岸に工業地帯が広がり、カンボジア側にも新港建設され物流が拡大するため、利用度が高く、南部湾岸副回廊が開通した。

### d. メコン河架橋

回廊の建設が進むとメコン河架橋が増える。現在国境を越える4橋が完成した。

- ・ 第一橋 ノンカイ⇄タナレン、1994年豪州の援助で完成した。総工費3000万米弗。
- ・ 第二橋 ムクダハーン⇄サバナケット間、2006年日本の援助で完成。総工費81億円。  
東西回廊が通過する。
- ・ 第三橋 ナコンパノム⇄ターケー間、タイ国の資金（17.6億バーツ）による。2011年完成。
- ・ 第四橋 チエンコーン⇄ファイサーイ間、タイ国と雲南省が費用（19.34億バーツ）を折半して分担した。2013年初に完成予定。南北回廊が通過する。

ベトナム、ラオス両国の国内でメコン河を跨ぐ橋梁が日本の援助で橋が一本づつ建設された。

メコン河を渡る橋の建設は域内の物流と人的交流を大きく発展させた。

## 2. 水力発電所の建設

### a. 雲南省の水力発電

メコン河を堰き止め、雲南省内に4大水力発電所（景洪1,500MW、大朝山1,350MW、漫湾1,250MW、小湾4,200MW）を建設した。各ダムは放水量がコントロールされ、下流国の農業、漁業に悪影響を与える。

### b. ミャンマーの水力発電

ミャンマーの潜在的発電能力は39,000MWであり、2010年時点で稼働中のもの40カ所2,500MWの能力を持つ。建設中の68件のうち63件は中国がらみである。最大のミツソンダム発電所はミャンマーの独断で2011年9月工事中止が発表された。

### c. ラオスの水力発電

ラオスはタイ国に売電目的のため、8カ所で年間20,000MWの発電を目標としている。既に30年の売電の歴史を持つ。中国向けは未だ100MWだけだが、今後増加見込み。メコン河本流をせき止め、タイ国に売電目的で建設するサイヤブリダム（高さ32m）はメコン河魚類の生態系を破壊するとカンボジアとベトナムの他、タイ国の一部よりも反対され、論争中。

### d. カンボジアの水力発電

中国が融資して国内用発電所（193MW）を完成させたが、これとは別に中国は自国向けに大型発電所の建設を推進中である。

## 3. 港湾の建設

開発の遅れたミャンマーは目下急ピッチで整備を進めている。ミャンマーの港湾は全てインド洋に面しており、中国、タイ国の外港としての役割を担うので、利権がらみの開発競争となった。

a. チャウピュウ港 … 中国が昆明よりマンダレーを経て、チャウピュウに至る大動脈建設を計画し、港湾建設も強く迫ったが、昆明間に石油・ガスの輸送パイプライン二本を敷設する事で結着している。パイプラインに沿って鉄道建設が引き続き討議されている。中国はマラッカ海峡を経ずにアンダマン海より昆明に中東の石油も輸送できる大きな権益を得た。

b. シットウエ港 … インドのタタ財閥がミャンマー政府と共同（タタ80%、ミャンマー政府20%）で建

設し、東インド地区との物流拠点として利用する。

- c. ティラワ港 … ヤンゴンの河川港が手狭であるため30キロ下流のティラワ地区に90年代に港湾を建設した。その増設と24平方キロに及ぶ広大な隣接地を利用して工業団地を計画した。中国と韓国の強い働きかけがあったが、日本に総合的な調査計画を依頼した。
- d. ダバー港 … 深海港として建設する。物流拠点の他に基幹産業の誘致を図り、大工業団地建設(250平方キロ)を計画している。タイ国バンコクの真西300km余の地であり、タイ国はインド洋側の同港を利用できるため、大きい権益を得る。タイ国ITD社が開発権を得て推進中。

#### 4. 高速鉄道の建設

中国は昆明―バンコック間の高速鉄道の建設を申し入れた。ミャンマーとベトナム向けも計画。高速鉄道は中国国内と同様、国際ゲージ(1.435m)であるが、GMS域内各国の既設線はメートルゲージで利用は出来ない。新規ルート設定となる。各国の対応が異なり、実現度は低い。タイ国では国内鉄道整備が優先されるべきとの意見が根強い。

### (3) 中国(雲南)の係わり方

- 1. 1992年に中国は勝手に領海法を制定し、シナ海、南シナ海で係争中の島嶼を勝手に自国領とした。核心的利益として一切の譲歩をしない。ベトナムが対立している。
- 2. GMSの開発は中国の覇権主義に好都合であるため、表面的には協調を図り、地域に多額の援助投資を進めた。特に経済制裁を受け、孤立したミャンマーに注力した。利己的態度が顕著であり、昆明と連結する案件にのみ、積極的であった。対ミャンマー投資額は2011年末で96億ドルに達した。対ラオスは2007年までに18.5億ドルとなった。
- 3. 水力発電は今後15年間にミャンマー、ラオス、カンボジア3国合わせて約500億ドルを投資する予定である。ミャンマー最大の発電所第一シュエリーは600MW、総工費32億円の内、中国は93%を負担した。BOT40年の条件で発電量の15%をミャンマーの消費に充て、85%は中国に送電する。
- 4. 中国が雲南省内のメコン河本流に、4大水力発電所を建設した結果、放水量の調節をしているため下流地域の各国は古来の農業、漁業が甚大な被害を受けている。各国の反発を受けているが強行している。
- 5. 中国が対外援助をする場合も、資機材+技術+労働力をパッケージにして中国企業が実施する。案件終了後も労働者を現地に残すので、投資に伴い入国する中国人を合わせ、ミャンマーに150万人、カンボジアに100万人、ラオスに30万人、ベトナムに10万人に及ぶ中国人が、いわば新移民者として居座っている。低所得国向け程、その傾向が強くなっている。
- 6. 2011年、中国はGMSにおける道路、鉄道網について、インフラ整備の「根幹部分は全て負担する」と約束した。南北回廊が通るメコン河第四架橋はタイ国と中国との折半になっている。

### (4) 各国の対応

#### 1. ミャンマー

欧米諸国の経済制裁により、ミャンマーは制裁に加わらなかった中国とタイ国へ依存を余儀なくされた。2011年来、段階的な制裁解除により、国際社会の援助が急増し、環境が変わった。当然選択肢が増え、意識が変わり、特に中国に対するスタンスが変化してきている。代表例がミャンマーと中国との共

同案件であったミッソダム発電所建設（総工費 36 億ドル）の一方的中止である。

## 2. タイ国

是々非々で二元外交を狙う。高速鉄道建設計画も中国の条件は結着せず。その後タイ国は在来線の強化を発表している。日本の協力を期待している。タイ国に対して中国は他の 4 カ国ほどには高圧的に出られない。タイ国は中国の台頭を歓迎すると見る向きがあるが、それ程親中国的でない。

## 3. ベトナム

1990 年外交関係正常化に伴い、良き友好関係を維持しているが、南シナ海領有権問題が深刻な対立点となっている。戦略的に中国と日本とのバランスを取っている。

## 4. ラオス

中国が進めたヴィエンチャン新都市開発計画は事業規模が大きすぎるとして、一旦認められた規模 1640 ヘクタールを 200 ヘクタールに縮小させている。回廊や鉄道は国内を通過するのみで、ラオスの国益に供しないとの批判が出ている。

## 5. カンボジア

国境を接しておらず、中国よりのインフラ関連投資は少なかった。GMS 内部では中国に協力的と見られている。上流のダムの放水量調節は農漁民に多大の損害を与えており、強く反対している。

## (5) 今後の動向

1. 従来、中国の GMS の CLMV4 カ国に対する態度は、端的に言えば高圧的、独善的、利己的であった。ミャンマーにおける水力発電の開発はミャンマーのためでなく、自国のためであり、又チャウピユウに至るパイプライン敷設や交通手段の整備は自国の権益確保のためであった。中国の態度は GMS 諸国の調和と生活体系を破壊すると酷評される面がある。
2. 2011 年に経済制裁の解除が実現し、ミャンマーに対する世界各国の経済援助や投資が進展しつつある。当然中国に大きく依存を余儀なくされていたミャンマーは選択肢が増え、中国への依存度が下がる。結果として、中国との案件の停止や訂正がミャンマー及びラオスに出現した。
3. 日本を含む米欧諸国の経済支援は中国の南進行動に対し強い抑止力となる。従い GMS 諸国の今後の動向は日米欧の支援力と中国の行動力とのバランスに左右される。日本は伝統的に親日である GMS 諸国へ強力な支援と協力をする事が肝要である。GMS 地域の調和ある発展の為に、中国は互惠及び共存共栄の精神を以って臨むべきである。

### (参考文献)

- ・東大社会科学研、研究シリーズ 3 末広昭、他「大メコン圏(GMS)を中国から捉えなおす」2009  
URL ; <http://web.iss.u-tokyo.as.jp/kyoten/research/doc/>
- ・白石隆、他「中国は東アジアをどう変えるか」2012 中公新書
- ・柿崎一郎「東南アジアを学ぼうーメコン圏入門」2011. ちくまプリマ-新書
- 他 ADB, JETRO, タイ国の資料等。

GMS域内インフラ開発概況

2012. 10

